

よしはさんの班では文学作品の冒頭部分を読んで、感じたことについて話し合っています。
あとの問いに答えなさい。

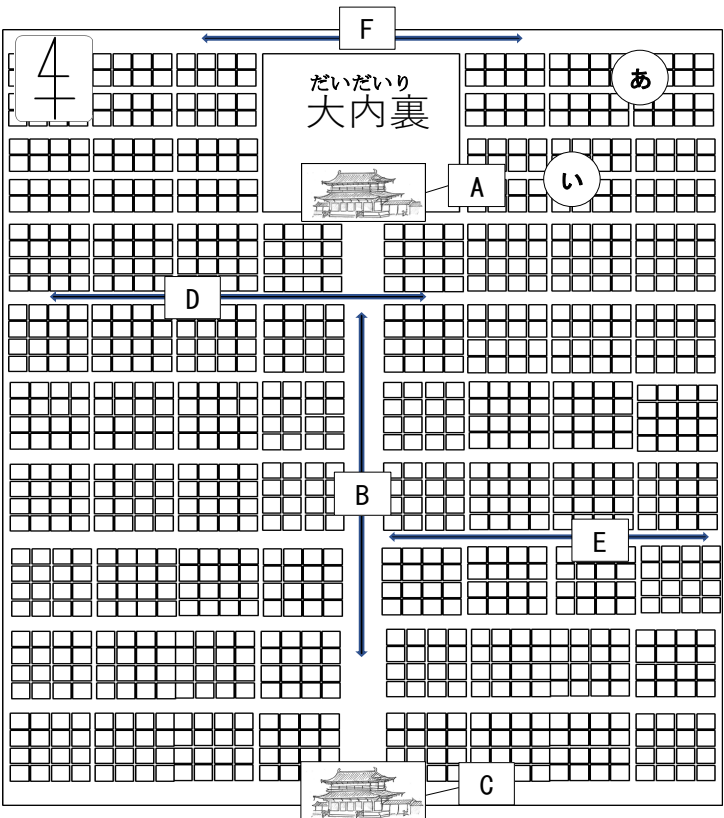
【文学作品の一部】

ある日の暮れ方のことである。一人の下人げにんが、羅生門の下で雨やみを待っていた。
広い門の下には、この男のほかに誰もいない。ただ、所々丹塗にぬりの剥はげた、大きな円柱まるばしらに、
蟋蟀きりぎりすが一匹とまっている。羅生門が、朱雀大路すざくおおじにある以上は、この男のほかに、雨やみを
する市女笠いちめがさや揉鳥帽子もみえぼしが、もう二、三人はありそうなものである。それが、この男のほかに
は誰もいない。

【よしはさんのノートの一部】

場所	羅生門の下	読者がつイメージ
時間(いつ)	ウ	・寂しい
登場人物	下人	・冷たい
目的	エ	・困っている

〈平安中期の平安京の町並み〉



調べた言葉

蟋蟀きりぎりす (きりぎりす)
コオロギの古称。
平安時代は、秋の虫である
コオロギをキリギリスと呼
んでいた。

市女笠いちめがさ (いちめがさ)
竹皮で編んだ笠。



揉鳥帽子もみえぼし (もみえぼし)
もんで柔らかく作った鳥帽子。



【話し合いの一部】

よしは この作品は、芥川龍之介あぐたがわりゆうのすけの「羅生門」という作品です。作品ができた時代は、
大正四年です。古典の今昔物語をもとに、作品を書き上げたそうです。

あかり 今昔物語に同じ話が出てくるのですか。

よしは 全く同じではありませんが、今昔物語の「羅城門」をもとに作られたそうです。

この「平安中期の平安京の町並み」の地図を見てください。

あかり 碁盤ごばんの目のようでおもしろいですね。

よしは はい。歴史上の人物の屋敷やしきがあったのですよ。例えば、「あ」の辺りには藤原道

長、「い」の辺りには紀貫之の屋敷があつたそうです。芥川龍之介の「羅生門」に出てくる「朱雀大路」は南北に走る大通りで、横幅が八十四メートルもあつたそうです。この地図だと、**ア**にあたります。また、題にもなっている「羅生門」は、当時、羅城門と呼ばれていました。この地図だと **イ** にあたります。

ところで、文学作品では冒頭の部分が大切だと思いますが、この作品はどういうことを読者に伝えたかつたのでしょうか。

私は、この冒頭部分について、場所や登場人物などをノートにまとめました。

こうすると、場面のイメージがわかりますね。

はい。「**ウ**」や「**エ**」という言葉から、寂しいイメージが伝わってきます。この物語の続きに、『下人が雨やみを待っていた』というよりも『雨にふりこまれた下人が、行き所がなくて、途方にくれていた』という方が、適当である。」とあります。実は下人は、働き場所を失っていました。

その下人の気持ちを場面設定で表現しようとしているのでしょうか。

そうだと思います。

(話し合いは続く)

1 【よしはさんのノートの一部】・【話し合いの一部】の **ア** と **イ** に当てはまる記号を〈平安中期の平安京の町並み〉の A～F の中から適切なものをそれぞれ選んで書きなさい。

ア	イ	
---	---	--

2 【話し合いの一部】の **ウ** と **エ** に当てはまる適切な言葉を、【文学作品の一部】からそれぞれ三字で書き抜きなさい。

ウ	エ	
---	---	--

3 【話し合いの一部】で——線部「下人の気持ちを場面設定で表現しようとしている」とあるが、どのような気持ちを表現しているのか、書きなさい。ただし、二十字以上、三十字以内で「気持ち」につながる形で書くこと。

30	20	
気持ち		

問題について

発展

「読むこと」文学作品に親しむ問題

（「羅生門」を読む）

文学作品には、印象的で象徴的な書き出しの作品が多いと言われています。近代以降の文学作品の中から名作とよばれる「羅生門」を取りあげました。この「羅生門」も例にもれず、冒頭部分が印象的で象徴的な書き出しとなっていて、その後の展開に読者を見事に引き込んでいます。「今昔物語」に題材を得て書き上げた「羅生門」は、時代設定にも注目したり、物語に出てくる言葉も調べたりすることで、読解を助けます。また、物語を読んだ感じたことや調べたこと等について、話し合うことでさらに理解は深まります。

○ 解答は、問題用紙に記入します。言葉や文章で答える問題は、条件に注意して書くようにしましょう。

○ 解答を読んで、自分で答え合わせをすることもできます。文章で書く問題は、解答の例文を参考にしましょう。

解答

24

1 ア B イ C

2 ウ 暮れ方 エ 雨やみ (順不同)

3 (例) 今後、どうやって生きていけばよいのかわからない (気持ち) (二十二字)